

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月14日

【評価実施概要】

事業所番号	0370101529
法人名	株式会社 三協医科器械
事業所名	グループホーム みんなのいえ
所在地	盛岡市向中野字向中野4番1号 (電話) 019-631-3741

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3F		
訪問調査日	平成20年11月13日	評価確定日	平成21年1月14日

【情報提供票より】(H20年 9月 29日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16 年 1 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	15 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 13.7 人

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4)利用者の概要(9月 29日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	- 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	- 名	要支援2	- 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	66 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	内丸病院、友愛病院、中村北条皮膚科クリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当グループホームは市街地化、宅地化が進む仙北町駅の南西部に位置し、近隣には盛岡スコーレ高校、幼稚園、内科医院、コンビニエンスストアなどがある。幹線道路に面していないので比較的交通量も少なく静かな環境下であり、ゆったりとした気持ちで生活が出来ること、近隣の施設とも交流し易いという利点が窺えた。グループホーム内は、2ユニットで別棟になっているが、デッキで繋がっており交流も持たれている。室内の雰囲気も明るく利用者はのんびりと暮らしている。当日は晴れて暖かい日であったので利用者は庭に置かれた椅子に座って日向ぼっこをしながら会話が交わされていた。職員も、より良いケアについて前向きに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との付き合い、家族会の設置、災害対策についての課題があったようだが、これらについて改善されていることが窺われた。子供見守り隊への参加、家族会の設置、また災害対策については、運営推進会議の議題に取り上げ意見交換をするなど改善課題に向けて取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員が個々に行いそれを管理者が受けて疑問と思われるところについては職員それぞれと話し合い、更には全職員で話し合って策定している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町内会会長、包括支援センター介護支援専門員、家族代表、グループホーム笑う門所長、管理者などで構成し、2ヶ月に1回開催している。討議内容は、グループホームの取り組み状況について、ドライブや温泉旅行したときの様子、避難訓練の取り組み、事故事例などについて報告し意見を聞いている。行事に合わせて会議を開くなどの意見が出される。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からアンケートを8月に記入してもらっている。広報月1回の発行、個人面談、必要に応じての電話、意見箱などを通して意見を聞いて運営に役立てている。家族との連絡はうまくいっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	広報による行事案内、町内会の夏祭りへの参加、地域神社の祭りのみこしの休む場所の提供、近隣の高校や幼稚園の行事への参加、子供の見守り隊への協力、防災訓練への参加などを通して連携を進めている。子供たちが散歩の時など立ち寄っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	共に和み、共に生きるを理念に掲げ全職員が利用者と一緒に楽しく生活することを目指しており、具体的には6項目をあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月行っている会議や毎月発行する広報紙「みんなのいえ通信」を通して理念の共有に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の夏祭りや地域神社の祭り、幼稚園行事、近隣の高校の文化祭や地区の防災訓練への参加、交差点での見守り隊への参加などを通して地域と触れ合っている。近く子どもたちが散歩のときなどに立ち寄ってくれたりもしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に一度、全職員が個々に自己評価を行っている。これをもとにして管理者がまとめている。前回の外部評価の結果は、改善計画シートを作成し、職員間で話し合い改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月ごとの開催で、行事があるときにはそれに合わせて開催し、利用状況などの他、評価の結果も報告している。避難訓練は夜間を想定して行うべきだという意見が出されるなど協議されたことはサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事務的なことはやってもらっているがそれ以上のことについてはこれからという感じである。</p>	○	<p>市町村との関わりについては、地域への啓発活動など連携して取り組むべきことがあると思われる。いろいろな機会を通して連携のあり方について市町村と協議されることを望む。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行する広報を通してホームでの暮らしの様子を知らせている。個人的なことについては面会時や行事の参加時に、緊急を要することは電話で家族に知らせている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族アンケートを8月に行い運営に役立てている。面談や苦情・相談窓口を通して家族の意見を聞いている。以前は職員の言葉遣いなどについて苦情があったが、現在は無くなっている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には職員の異動はしないことを原則にしている。現在はユニット間での交換交流が行われており、全職員とは馴染みの関係が出来ている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画に基づいて事業所研修や外部研修に全職員が参加されている。外部研修に参加した場合は、復命書を回覧し、また会議の際に報告するなどして全職員の共有に努めている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会の定例会や事例検討会に参加することはもとより、独自に県内の他のグループホームと職員交換研修や情報交換も行い、サービス向上に取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用(入居)の際はグループホームを見学等してもらいながら、利用者の生活の様子や職員の支援について見てもらっている。グループホームに来られない場合は訪問し、説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入浴や外出など、一人ひとりの気持ちを汲み取りそれにそって支援するように努めている。水木だんご、干し柿、漬物、ほっきめしなどの郷土料理の仕方を教わったり、また野菜づくりなどを教えて貰うことを通して支えあう関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の動きを観察したり、話し合いを通して思いや意向の把握に努めている。出来ること、出来ないことを3ヶ月ごとに調べたり、利用者を孤立させないように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者ごとに担当者を決めたり、全員が参加するカンファレンスで利用者の動きを話し合ったり、また家族からの情報を聞いたりして総合的に見て介護計画を作成している。作成した計画書を更に家族に見せるというプロセスを経て完成させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回介護計画の見直しをしている。具体的にはカンファレンスにおいて、全職員で検討し変化に対応出来る新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションからの毎週の訪問看護、主治医の月一度の訪問による医療面での対応、グループホームで最後まで過ごせるような看取り可能な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用(入居)前から継続している主治医が5名で、他の方は同意を得て、グループホームの主治医が主治医となりグループホームに往診して貰っている。通院は基本的には家族同行となっているが、それができないときはグループホームで同行している。緊急時にはグループホームで判断して対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携指針を作成し、終末期に向けた対応に努めている。状況に応じて宿直体制も用意されている。医師や家族とは繰り返し話し合いを持って希望に沿った対応が出来るように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	指示、命令口調にならないように会議などで確認し合っている。これに関することや個人情報に関することについては新人研修で伝えるほか、事務所やホールに掲示し、注意し合うように努めている。個人情報に関わる文書はロッカーに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活のパターンは決まっているが、外出したいときに外に出る、ゆっくりテレビを見て23時頃に就寝するなど、利用者の希望に合わせて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューの作成に当たっては利用者の意向を聞いている。利用者と一緒に食材の買い物をしている。調理、後片付けなどには利用者の能力に応じて参加する体制で取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯については利用者の意向を聞いて対応している。職員が利用者と一緒に入浴することもある。入浴を嫌がる場合は、事前に散歩やドライブをして入浴につなげる工夫も行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたむこと、調理への参加、野菜作りなど利用者の持っている技、力を生活の場に発揮させるなどして満足感を持たせている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望や、天候に応じて、お花見や紅葉狩り、住宅見学、お庭の散歩、外食などに出かけている。庭のいすに座って日光浴をしながら楽しそうに話している場面が見られた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は施錠するが日中はかけずに見守りをしている。下駄箱に鈴をつけてふたを開けると鳴るような工夫がされている。また、過去にはGPSの使用、朝にその日の服装を確認しておく、利用者の写真を交番に届け出しておく等の対応も行った。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもとに避難訓練を年2回行っている。運営推進会議でも議題として取り上げ検討されている。	○	災害対策については重要な課題として取り組まれている。地震対策については、訓練や地域との協力関係について更なる検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ物や水分の摂取量、体重の変化などについて個別に記録が取られ、それに基づいた支援が行われている。献立については毎月、栄養士から指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、日光が差し込みスペースも充分である。ソファもあちこちに置かれ、団欒をしたり、一人になって自由に休めるようになっている。時計やカレンダーも見やすいところにあり、絵画や花も備えられ生活観や季節感を取り入れられた造りになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や写真、花、家で使っていた座布団、茶飲み茶碗などが持ち込まれ、家庭的な雰囲気づくりに取り組まれている。		